

保健師による連携システムの推進	保健所と市町村の共同作業	糖尿病に限らず、事業を進める時は必ず保健所、市町村の合意を得る
		保健所は初回の病院への説明に同行してくれた
		モデル事業開始時、保健所と市町村でケースを分担した
		保健所は市が対応しているケースを継続的に支援
		保健所は日常的に市町村の求めに応じ相談や対応、家庭訪問などに同行してくれる
		保健所は糖尿病に限らず連携を図る市町村の事業へ関与している
	保健所保健師のリーダーシップ	保健所独自の事業のため予算がないことを伝える
		保健所は市町村保健師と同じ方向を見て進むためのリーダーシップが必要である
		保健所は基準作り、まとめなど条件整備した上で進めていくことを鉄則にしている
		保健事業は地域住民が受けやすい体制づくりのために市町村自らねじり鉢巻きをする必要があるが、保健所も汗をかく、やれることは絶対する
		日々の業務をしながら窓口の人材を見極める
		異動後 2~3 か月で職員の様子、地域のまとまりの程度を見る
		保健所として市町村を支援していく、質をアップする力量が問われている
		基盤づくりが保健所の大事なところ、勉強会へ参加し国保連合会の指導者と連携し保健師の質を高くしていく
	連携システムの中での保健師の役割	保健所は市町村の特定健診の個人データや検査結果を分析し資料を作成してくれる
		保健所は市町村と一緒に取組もうと声を掛けてくれた
		登録医療機関から市の糖尿病支援事業担当保健師へ本人の同意書と診療情報提供書が届く
		本人との電話による面接日の調整
		本人の気持ちや難しく思っていることを確認する
		本人と一緒に具体的な目標を決める
		正確な食事量の把握のため 3 日間の食事内容を写真に撮ってもらう
		面接内容や食事記録の結果を 2~3 週間の間に医師へ返却する
		糖尿病患者や予備軍を対象とした連携パスに関する研修会開催
		保健指導は、必要な人へ優先順位を決めて成果が出るまで関わる
		地域へ広げていくための研修会の開催

連携システムの課題	医療機関相互の関係	開業医は専門医へ紹介すると患者が戻らないと危機感を持っている
		専門医受診によるメリットを感じない
		連携システムにすることで経過記録の負担が大きい
		専門医は開業医へ循環型で返していこうと思っている
		専門医は患者にしがみつかれているようで困っている
		専門医は基幹病院が機能しなくなると困るので循環型を患者に理解してほしい
	早期段階からの保健指導	HbA1c6.1以上は受診勧奨しているが、医師に問題ないと言われると進まない
		境界型は大したことはないと説明され保健指導を聞いてもらえない
	糖尿病専門医への受診	2か所受診への抵抗
		専門医を紹介するとかかりつけ医への遠慮がありためらう
		糖尿病専門医がいるなら受診したい
		患者は専門医の診療で体調がよくなり専門医を希望する
	取組の評価	1事例でも意欲的な患者を支援することで医療費削減へつながる
		人工透析患者の医療費を評価視点とする
		国保連保健師は経過や取りまとめの資料づくりをし見える形にしてくれた
		市は事例ごとに検査データの経過をグラフ化し主治医へ報告している
		データの改善から連携システムの効果を理解する
		データの改善により連携システムへの紹介者が増える
		保健師が医師に対して受診者の採血時間の統一を提案する

健康診断受診率向上のためのポピュレーションアプローチ

研究代表者 福田 吉治 山口大学医学部地域医療推進学 教授

研究要旨

地域において糖尿病のケアを効果的に行うためには、その入口として健診が重要となるが、特定健診等、住民を対象とした健康診断の受診率は低調なのが現実である。そこで、健診受診率向上を目的としてポピュレーションアプローチの方法として、健診・検診を受けるとスタンプがもらえる「ケンシン・スタンプラリー・カード」と健診・検診についての普及啓発を目的としたキャラクター「ケンシンファイブ&ケンシンキング」を作成し、受診率向上のための活動を行った。ケンシンスタンプラリーカードは、特定健診およびがん検診を受診するごとにスタンプを押印するものである。啓発キャラクターは、特定健診と5つのがん検診（胃、肺、大腸、子宮、乳）をPRするもので、ポスター、チラシ、アニメ、各種イベントを使って、健康診断の普及啓発を行った。受診率への影響はこれからで、活動にあたっての課題はあるが、これまでにないユニークな取り組みとして注目され、今後の受診率向上が期待される。

A. 研究目的

糖尿病を地域で予防するには、早期発見と早期治療が重要である。平成 20 年度より、糖尿病およびメタボリックシンドロームの予防を目的とした特定健診・保健指導が開始された。これは、各保険者が 40～74 歳の被保険者に対して、健康診査を実施し、メタボリックシンドロームおよびその予備群に準じる対象者に対して保健指導を行うものである。

特定健診では受診率が伸び悩んでいる。国は、参酌標準として、国民健康保険では平成 24 年度に 65% を目標にしているが、特に、国

民健康保険において受診率は伸び悩んでいる。

特定保健指導の受診率が伸び悩んでいる原因や背景はいろいろと考えられる。これまでと異なる提供体制（保険者が提供）、受診項目の少なさによるお得感のなさ、腹囲測定への抵抗感、がん検診との分離などが考えられる。

受診率向上のためには、さまざまな手段が考えられる。対象者への啓蒙、日数や時間などのアクセスの向上、費用などである。また、がん検診との同時実施や健診項目の追加なども効果的であるとされる。受診率の向上には、対象者全員を対象とした啓蒙活動、いわゆる

ポピュレーションアプローチを行うことが必要である。

そこで、本調査は、特定健診の受診率向上を目的としたポピュレーションアプローチの方法を検討し、モデル的に実施することを目的とする。

B. 研究方法

1) ケンシンスタンプラリー

山口県では健診・検診受診率の低さが問題となっている。そこで、昨年度開発した「ケンシンスタンプラリーカード」を使用し、山口健康福祉センター管内（山口市と防府市を含む）での受診率向上を目的とした対策について検討し、実施した。

スタンプラリーカードのデザインを図1に示した。名刺サイズの半折で、表には表紙と氏名等を記載する。裏には5つの健診・検診の表を掲載し、受診時に医療機関・検診機関等で押印する欄を設けた。

なお、スタンプラリーカードは、保険証を入れるフォルダのあるものとなないものに二種類を作成した。カードタイプの保険証を使用している保険者は保険証入れタイプを利用することができる。

行政（県健康福祉センター、市の健康づくりおよび国民健康保険担当課）、関連保険者（協会けんぽ、組合健保）の地域職域連携協議会の協力を得て、スタンプラリーカードの配布を行った。カード30,000枚を、保健センターの窓口、健康保険組合、協会けんぽ、医療機関等と通じて配布した。また、スタンプがすべてたまった者（修了者）に対して記念品等を配布する仕組みも作った。

カードの利用状況調査及び修了者へのアンケートを用いて評価した。

2) 啓発キャラクター

山口県下松市をフィールドに、オリジナルキャラクターを用いた健康診断受診向上の普及啓発を行った。キャラクターは、行政（健康づくり担当課）、商工会議所青年部、徳山大学知財倶楽部等と共同で作成した。作成したキャラクターを用いて、さまざまな普及啓発活動を行った。

C. 研究結果

1) ケンシンスタンプラリーカード

カードの配布元（行政、健康保険組合等）の意見としては、健康診断をPRする上では有効であったが、医療機関や健診機関の受入れ体制が整っていない、説明に時間がかかるなどの理由で、十分な配布が行われたわけではなかった。

修了者のカード回収数は156であった。性別は男性64名、女性92名、年齢は、40歳代27名、50歳代35名、60歳代66名、70歳代28名であった。カードがあることによって、健康診断が受けやすくなると回答したものは47.4%、健康診断に誘いやすくなると回答したものは55.8%であった。修了者の多くが、スタンプを押してもらうこと、スタンプをためることで記念品等があることで、健康診断を受ける動機が高まるという意見があり、健康診断を受診する意欲を高めることに寄与していることがうかがえた。

2) 啓発キャラクター

キャラクターは、“ケンシンファイブ”と“ケンシンキング”で、これは、現在国が推奨しているがん検診は5種類（胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がん）及び特定健

診をPRするキャラクターである。キャラクターの名前として、胃がん検診＝マーゲン、肺がん検診＝ラング、大腸がん検診＝コロシ、乳がん検診＝マンモ、子宮がん検診＝ケイ、特定健診＝ケンシンキングとした。

下松市は、その由来から“星降る町”として有名であるため、これらのキャラクターは、「健康惑星」から健康診断の受診率向上を目的にやってきた宇宙人という設定とした。市長から任命式を経て活動を開始した。(図2)

キャラクターを用いて、主に以下の普及啓発活動を行った。これらの活動は、新聞やテレビなどでも取り上げられた。

- ・ ポスター
- ・ チラシ作成 (ティッシュとともに)
- ・ 各種イベントへの出演
- ・ 保育園等での出前講座
- ・ アニメの作成
- ・ 4コマ漫画の作成
- ・ 健康診断案内

D. 考 察

健診受診率向上を目的としてポピュレーションアプローチの方法について、山口県内の二つの地域をフィールドに、行政等の関係者と共同で検討した。その結果、これまでになかった二つの新しい方法を考案することができた。

ケンシンスタンプラリーカードは、特定健診等循環器健診、5つのがん検診(胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮がん)を受けるごとにスタンプを押印するカードである。

このメリットは以下である。

- (1) 受診すべき健診・検診の種類がわかりやすい。
- (2) すでに受けた健診・検診と受けていな

い健診・検診が自分で理解できる。

- (3) 受けていない健診・検診がわかるため、医療機関等で受診勧奨が行いやすい。
- (4) 回収することで、受診状況が把握でき、受診率が算出できる。

ただし、行政担当者、医療機関や健診機関等の理解が十分でなかったこともあり、今年度での普及は十分ではなかった。今後、関係者が、その主旨を理解し、普及と利用に協力してもらう必要がある。また、今回の試みが、健康診断受診率にどの程度寄与したのかは不明瞭であり、受診率の推移に注目したい。

キャラクターは、昨年度行った商工会議所青年部等とのワークショップの中で生まれたアイデアである。その際、「健診の数が多い」と「どんな検査があるかわからない」という意見があった。一般住民にとっては、健診・検診の種類が多く(提供機関含む)、どの健診・検診を受けなければわからなくなっているということである。したがって、国がすすめている5つのがん検診と特定健診に絞った普及啓発のキャラクターを作成した。

なお、当初、いわゆる“戦隊モノ”でのキャラクターを予定していたが、著作権などの関係で、キャラクターの変更を行った。新しいキャラクターの作成には、徳山大学知財倶楽部(学生含む)の協力を得て、キャラクターのコンセプト、デザインなどの助言を得るとともに、アニメの作成等を担当してもらった。

本キャラクターは、コンセプト、デザイン等でのユニークさから、メディアでも取り上げられ注目をされた。市民が参加する行事、出前講座での普及啓発活動でも人気となっている。健診受診率の向上への貢献の期待も高まるため、受診率の推移を観察していきたい。

E. 結 論

健康診断受診率向上のポピュレーションアプローチの取組として、ケンシンスタンプラリーカードならびにPRキャラクター（ケンシンファイブ&ケンシンキング）を使用した活動を開始した。受診率への影響はこれからで、活動にあたっての課題はあるが、これまでにないユニークな取り組みとして注目され、今後の受診率向上が期待される。

G. 研究発表

1. 論文発表

福田吉治, 田原浩子. ケンシンファイブ物語

1. 公衆衛生情報 2012. (印刷中)

福田吉治, 田原浩子. ケンシンファイブ物語

2. 公衆衛生情報 2012. (印刷中)

福田吉治, 田原浩子. ケンシンファイブ物語

3. 公衆衛生情報 2012. (印刷中)

2. 学会発表

福田吉治, 田原浩子. 健康診断の受診率向上を目的にした普及啓発活動の参加型開発. 第70回日本公衆衛生学会. 2011年10月. 秋田. 日本公衆衛生雑誌 2011 ; 58 (10) ; 165.

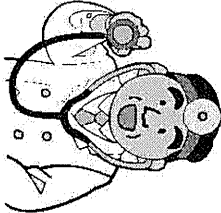
H. 知的財産権の出願・登録状況

商標登録（山口大学と下松市での共同出願）：ケンシンファイブ、ケンシンキング

定期的に健診・検診を受けましょう。

ケンシン・スタンプラリー カード

このカードは、必要な健診・検診を受けたことを確認するものです。
受診して、スタンプを集めましょう。



お名前

加入医療保険

～医療機関・健診機関等の方へ～

- ・カードをお持ちの方が受診された場合、裏面に受診日時を記入し、押印下さい。
- ・検診・検診を受診されていない方には受診を勧めして下さい。

※本カードの作成に当たっては、厚生労働省健康増進局健康増進課「健康づくり推進課」の協力を得て作成されています。

受診する際に、受付窓口で、受診日、受診機関名を記入・押印してもらいましょう。

健診・検診	検査方法など	受診日	受診機関等の名称	確認印
特定健康診査 等循環器健診	身体・血圧測定、 血液検査、など			
胃がん 検診	胃X線検査、 など			
大腸がん 検診	便潜血検査、 など			
肺がん 検診	胸部X線検査 (喀痰細胞診併用含む)			
子宮頸がん 検診【女性】	細胞診 (2年に1回以上)			
乳がん検診 【女性】	マンモグラフィ (2年に1回以上)			

※ 受診できる医療機関等については、市町村保健センター、健康福祉センター、保健所、医療機関等にお尋ねください。

図1 スタンプラリーカードのデザイン



図2 ケンシンファイブ&ケンシンキングのポスター（上）と実写版（下）

医療連携を推進するツール開発：健康ファイルの作成と評価

研究代表者 福田 吉治 山口大学医学部地域医療推進学 教授

研究分担者 原田 唯成 山口大学医学部附属病院医療人育成センター 講師

研究要旨

医療機関等の連携を図るためには、検査結果、処方薬剤などの診療情報を共有することが重要である。特に複数の健康問題を持つことの多い高齢者では、糖尿病の限定しない医療連携を図るためのツールが必要である。本研究は、山口県美祢市の住民（主に通院中の者）を対象（約 500 名）に、各種資料、複数の手帳等をファイリングする「なんでも健康ファイル」を作成し、実際に活用し、その利便性や課題を評価することを目的とした。ファイルは、A4 版と A5 版の 2 種類とした。配布 4 か月後に、ファイルの使用状況とともに、通院状況や地域医療の意識等について調査を行った。364 名より回答があった（回答率 78.1%）。分析の結果、40%程度がファイルを通院時に活用していた。使用しない理由としては、持ち運びにくい、必要性を感じないなどの意見が多く、ファイルの大きさ等について課題もあった。通院状況では、重複受診は比較的少なく、おくすり手帳もうまく活用されている様子がうかがわれた。今回の調査を参考に、より利便性の高いツールを作成し、運用することが、医療連携の推進に寄与できるであろう。

A. 研究目的

医療機関等の連携を図るためには、検査結果、処方薬剤などの診療情報を共有することが重要である。現在、糖尿病手帳、お薬手帳、健康手帳等の各種手帳類の普及が図られているが、必ずしもその利用は十分ではない。特に、複数の疾病を持つ高齢者においては、検査結果表（健診結果含む）、処方された薬の説明書、複数の手帳など、多くの健康情報が整理されることなく所持されている場合が多い。

その結果、患者自身も医療従事者も適切な情報を得る事ができず、医療連携や質の高い医療の提供の障害となっている。

そこで、本研究は、各種資料、複数の手帳等をファイリングする「なんでも健康ファイル」を作成し、実際に活用し、その利便性や課題を評価することを目的とした。また、同時に、美祢市の地域医療の意識等についても調査を行った。

B. 研究方法

1) ファイルの概要

大きさはA4とA5の2種類とした。透明なポケット20ページで、最初に名刺サイズのポケットを追加した（保険証や受診券用）。携帯用のバッグ（色や形など数種類）も同時に配布した。



2) 配布

平成23年9月から10月に、美祢市立病院、美祢市立美東病院、美祢市保健センターにて行った。調査目的、バッグの利用方法、後日の調査について説明を行い、同意の得られた者に、大きさ2種類のファイル、数種類のバックから選んでもらい、配布した。配布数は474名（美祢市立病院240名、美祢市立美東病院148名、美祢市保健センター86名）であった。

3) 評価のための調査

平成24年1月に郵送調査にて別紙調査用紙を用いて、「なんでも健康ファイル」の使用状況、美祢市の地域医療に関する意識等を調査した。

C. 研究結果

宛名不明での返送が8名、回答は364名（回答率78.1%）、未回答項目が多いなどの理由で2名を除外した362名を分析対象とした（有効回答率77.7%：質問ごとに未回答有り）。

1) 基本属性

基本的属性として、性別および居住地域を表1-1、表1-2にそれぞれ示した。

表1-1 性別（問1）

	N	%
男性	128	35.8
女性	230	64.2
合計	358	100.0

表1-2 居住地域（問2）

	N	%
旧美祢市	190	53.2
旧美東町	77	21.6
旧秋芳町	73	20.4
その他	17	4.8
合計	357	100.0

2) なんでも健康ファイルの使用状況

なんでも健康ファイルの使用状況について、持って行く頻度を表2-1に示した。「あまり持っていない」または「全く持っていない」と答えた者が回答したその理由を表2-2に示した。ファイルに入れているものを表2-3に示した。利用しない理由とファイルに入れているものについての自由記載はそれぞれ表2-4、表2-5に示した。

表2-1 医療機関へ持っていく頻度（問3）

	N	%
必ず持っていく	67	19.9
だいたい持っていく	67	19.9
あまり持っていかない	77	22.8
全く持っていかない	126	37.4
合計	337	100.0

表2-2 持って行かない理由（問3-2）

N=247：複数回答）

	N	%
持ち運びにくい	80	32.4
忘れてしまう	58	23.5
特に理由はない	52	21.1
必要だと思わない	45	18.2
資料に入れ方がわからない	3	1.2
その他	37	15.0

表2-3 ファイルに入れているもの（問4）

	N
おくすり手帳	169
薬の説明書	157
血液検査などの結果	151
健康診断の結果	147
保険証	142
診察予約票	141
医療機関の受診券	137
健康手帳	75
医療機関の領収書	74
血圧手帳	41
糖尿病手帳	29
その他	18
何も入っていない	42

表2-4 持って行かない理由（その他、自由記載）

利便性について

- 病院でもらった書類をいれている
- 帰宅して整理する
- 家に帰ってファイルする
- 帰って整理する
- 帰って入れる
- 帰ってからファイルにいれかえる、大きいので小さい袋にいれかえる
- 家に帰ってファイルする
- 帰ってファイリングする
- 病院より帰ってからファイル化する
- 必要な書類だけ持っていき病院から帰ってファイルする
- 小さいバッグに保険証をいれているため
- バックに入る大きさのものに病院へ行く必要なものを入れている
- 必要なものだけ持っていく
- 持ち運びにくく、自宅で使っている

-
- 荷物になる
 - 資料を持ち帰り保存にファイルを使っている
 - 保管
 - 保存に使用
 - 家では使っている
 - 荷物になるので面倒
 - 診察券だけ抜き取って持っていく
 - 結果を残すためだから、家においておく
 - 診察券と保険証だけだから
 - 車の中で資料を入れる
 - 手に荷物があるから

機能性について

- ファイルが大きすぎる
- 大きすぎる
- 大きすぎたため、小を選んでいたらよかった
- 大きすぎる
- 袋が大きすぎる
- サイズが大きすぎる
- 服のポケットにははまらない
- かばんに入れるには大きすぎる
- 大きいから
- ファイルが小さい方がバックに入りやすいので検討してください
- かばんに入らない
- 定期的に受診がないためとファイルが小さすぎる

その他

- ファイルをもらってから元気で病院にいったない
 - 1度も病院に行っていない
 - 病院等に行かない
 - 病院にあまり行かない
 - 1年に1度くらいしか行かない
 - 現在もっていない
 - もっていくほどではないため
 - 先日紛失致しました
 - 半身まひのため
 - 通院以外の資料をファイルしている
 - 係の人より薬の説明書を入れるように言われた
-

- 病院の資料
- 調査票が来るまで忘れていました。これからは持っていきます。
- 事前にファイルで確認し、通院時にはメモしていく

表 2-5 ファイルに入れているもの（その他）

- ファイル配布時に配られた書類
- 家庭での保管用として使用
- 主人が 23 年 10 月から介護の世話になっており、介護関係のものすべてを入れている
- 市報、福祉便りなど
- 介護に関する大切な書類（要介護 3）
- 行事の日程表
- ジェネリック医薬品説明資料など、薬に関する情報資料
- メモ帳
- 母子手帳
- 自分の病気に関係ある書き物など
- 毎月の検査の結果
- 一か月分分けて入れているので大変重宝しています
- 血圧測定時の記録紙

3) ファイルの感想（問 5）

ファイルの大きさについての感想を、A4 版を配布した者、A5 版を配布した者を区別しながら、表 3-1 に示した。

ファイルの厚さ（ポケット数）、バッグの大きさについての感想、資料や手帳がうまく整理できたかどうか、今後の活用の希望の結果を表 3-2、表 3-3、表 3-4 に示した。

表 3-1 大きさ

合計	N	%
大きすぎる	123	36.8
ちょうどよい	203	60.8
小さすぎる	8	2.4
計	334	100.0
A4 版配布	N	%
大きすぎる	67	41.4
ちょうどよい	94	58.0
小さすぎる	1	0.6
計	162	100.0
A5 版配布	N	%
大きすぎる	56	32.6
ちょうどよい	109	63.4
小さすぎる	7	4.1
計	172	100.0

表 3-2 厚さ (ポケットの数)

	N	%
多すぎる	46	14.2
ちょうどよい	245	75.9
少なすぎる	32	9.9
合計	323	100.0

表 3-4 資料や手帳の整理

	N	%
とてもうまくできた	50	16.2
まあうまくできた	184	59.5
あまりできなかった	56	18.1
まったくできなかった	19	6.1
合計	309	100.0

表 3-3 バッグの大きさ

	N	%
大きすぎる	121	37.6
ちょうどよい	196	60.9
小さすぎる	5	1.6
合計	322	100.0

表 3-5 今後の使用

	N	%
是非使用したい	114	34.9
できれば使用したい	169	51.7
あまり使いたくない	34	10.4
まったく使いたくない	10	3.1
合計	327	100.0

表 3-6 便利な点 (自由記載)

利便性について

- 初ページの医療機関の診察券が一覧できるのが、とてもよい
- 必要なものが入れられ、忘れ物がなくなった
- 診療所から帰って、領収書をいれるのに便利です
- 結果がきちんと整理できるのでとても助かっている
- 一カ所にまとめられるのが嬉しい
- 包括支援センターやいきなりサポートのケアマネージャーの方が見えた時、時間をかけずに出し、見ることができてよい
- 医者の資料がまとまるからよい
- 一括管理ができる
- 病院ごとに入れられるので便利 (ファイル利用初めから3ヶ所病院)
- 必要なモノがばらばらにならず便利です
- 家で使うのは便利です
- 医療関係のものを整理しやすい
- 家庭で医療の領収証や健康手帳、お薬手帳、保健消灯を保管するのによい
- 便利がよい (よく見えるから)

-
- 自分の健康や医療に関することをまとめて収納できるのでとても便利である。離れて暮らす娘家族にとっても自分で何かあったときとても分かりやすいと思います
 - 通院に必要なものがまとめて入れられるので便利
 - 便利でした
 - 家庭に整理しておくのによい
 - 検査結果をまとめて入れるのに便利である
 - 開けたら結果票とかがすぐ見られるので役に立っている
 - 病院に行くときに持っていくものを忘れずに済みます

機能性について

- 2～3の病気をかかえ介護も受けているので大きいファイルで助かっています
- 色がわかりやすくて目につきやすい
- 大きさに使いやすい
- 持ち歩くには大きすぎるが、検査結果は入れやすく見やすい
- 小さいポケットは、ちょうど診察券が入りやすかった
- 袋が厚くて入れやすいと思った

その他

- 子供がよく見てくれます
-

表 3-7 不便な点

利便性について

- 保険証、各手帳、資料をファイルに1つにまとめると、病院持参時、他の鞆と2つになるので、1つにしたい
- ファイルは健康管理資料の保存には良いと思う。外来に対しては家庭にむしろおいておくほうが適しているかもしれない
- 荷物になるので持ち歩かない
- 持ち歩きには不便
- 通院するに持参するには全部必要ないので、一度も持参していない
- 医療機関に全部もっていくにはかさばる
- 検査結果や診断結果など分けて整理しやすいファイルが欲しい。回数を重ねて収納できるよう一目でわかるように。

機能性について

- 2つ穴あけて押さえこむ方法がよいのでは？
 - 病院などでいただく検査の紙は大きすぎてファイルに入らない
 - 家庭保険用には適するが、病院への持ち込みは大きすぎる
 - 健康ファイルは便利だが受診日には大きいので持っていけない
-

-
- できれば使用したいです。大きいために持ち運びでなく家での整理用に使用しています。もう少し、小さくコンパクトなら持ち運びに利用できる
 - 病院にもっていくには大きすぎる、帰ってから整理してはさむ
 - 重すぎ、バッグにはいらない
 - 大きすぎる。つい忘れていく
 - 少し大きすぎて持ち運びに不便
 - 大きいので不便
 - 大きいので携帯に不便
 - バッグに入れるには少し大きい気がします
 - ファイルの大きさは半分くらいがいい
 - 大きすぎる。健康手帳くらいでいいのでは？
 - 大きくてバックに入りにくい
 - 私が頂いた分は A4 サイズの大きさ分で普通のファイルでしたので・・・。
 - ファイルの選び方に失敗しました。大は小を兼ねると思い大きいのを選びました
 - 半分くらいの大きさなら良い
 - 両面見えるので良い
 - 通院時に持参するバッグに入りにくい
 - 持って病院に行くには大きすぎる
 - 家で使用するにはよいが持ち運びには大きすぎる
 - 通院のとき手持ちのバックに入りません
 - バッグにいれにくい
 - バッグが大きすぎ。手提げの紐が長すぎる。
 - バックが大きすぎる。ファイルよりちょっと大きめ位がよい
 - 保険証の大きさのバックが欲しい
 - ファイルの大きさが少々大きすぎる感がある。使用しなくてはと思いつつも、今までの流れで分類してきてしまった。
 - 大きいサイズだったので、持ち歩きが不便だった
 - もっと手帳サイズの方が良い
 - 大きさがせめて今の半分くらいなら使うかも
 - 服のポケットに入る大きさ
 - 日常使用するバックに入りやすい方がいいので小さく、色も目につく色がよいと思う
 - 小さいポケットの数を増やしてほしい。市販のものがあるか探しているところです
 - 手帳保険証が入るポケットがほしい
 - ファイルのポケットが小さすぎて保険証も糖尿病手帳も入らない
 - 健康保険証が入れられるサイズがほしい
 - 診察券が入らない
-

-
- ポケットの数が少なすぎる
 - ファイルが薄いので入れにくい
 - ポケットにはいない。ポケットからすべり落ちる。
 - もう少しポケットのビニールが厚かったらよい
 - ポケットの厚みがもう少しあればよい
 - 急に体調が悪くなって治療を受ける際、カードの入口が分かりにくかった
 - ファイルの中のビニール袋が少し厚い方が資料を入れやすいと思います
 - ビニール袋が薄く弱い
 - ファイルの紙が薄すぎる。もう少しかたくてもよいと思う。
 - 高齢でありビニール袋が薄く袋がなかなか開かず使いにくいので使用していないようです。

(代) 娘

- お薬手帳や母子手帳を入れていたが、ポケットが大きすぎて出てきてしまうことがあった。出てきてしまうので別にもつようにしていた。ファスナーがついたらいいなと思う
- 反対にしたらこぼれやすいファイルの素材がすべりやすくポケットから診察券が落ちやすくカバンも大きく口が開いているので中の物が出てくる
- おくすり手帳を入れると、ファイルポケットから落ちやすいので、ジッパー付きのファイルがあると良かった
- カード類は入れてもすべりおちる
- カードを入れた場合、下向きにしたときカードが抜け落ちる心配があり、利用をしなかった
- 枚数がもう少し多いとよい
- A4 サイズの半分のファイルが 1 ページしかありません。あと、 2, 3 ページあれば、便利かと思う。
- ファイルに差し込み時、紙等が折れる
- 閉じる金具が固い
- 1 年分しかファイルできない
- ちょっと書き込むためのペンホルダーがあるとよい。シールを張って探しやすくするのもよいのでは

その他

- ファイルを利用していませんが、手が悪いので、入れにくい。かかりつけの医院で袋をもらってその中にクスリ手帳その他入れて、専用になっている。
 - 血圧の診療なのでファイルを使うほどの必要がない
 - 心細い気持で受診するわけだから暗いファイルはタブーと思う
 - 使っていないのでまだわかりません
 - 使い慣れていないので使いにくい
 - 診察券などはいつもバッグに入れてます
 - 使用の目的をよく聞いてかなったので、今後はこの手帳を医療全てに利用します
-

- 薬の説明書を入れるように言われたので、納得できない
- 一つにまとめて2人のバッグに入れてあります。とても便利だと思います。
- 今まで大きめのカバンに入れていたので変更するのが面倒です
- 健康ファイルは血液検査や年に1回市町村のやる検診の書類が次々と何年でもはさんで止められるようなものがあればいいなあと思います。必要のないような古い書類は家において、最近の書類は医者へ持っていくため小さいファイルにまとめてカバンに入れたらと思います。

4) 通院状況

治療中の病気、通院状況、通院手段についての回答をそれぞれ表 4-1、表 4-2、表 4-3 に示した。

表 4-1 治療中の病気（問 7）（複数回答）

	N	% (362 中)
高血圧	173	47.8
眼・皮膚の病気	93	25.7
脂質異常症	88	24.3
関節の病気	65	18.0
糖尿病	56	15.5
脳の病気	52	14.4
腰痛	49	13.5
心臓の病気	48	13.3
胃腸の病気	46	12.7
その他	72	19.9
治療中の病気なし	22	6.1

表 4-2 通院状況（問 8）

	N	%
通院していない	29	8.6
1ヶ所	186	55.2
2ヶ所	91	27.0
3ヶ所	28	8.3
4ヶ所以上	3	0.9
合計	337	100.0

表 4-3 通院手段（問 10）

	N	%
自分の運転する車	196	57.1
同居する家族の車	64	18.7
路線バス	29	8.5
徒歩	16	4.7
自転車	13	3.8
病院マイクロバス	8	2.3
同居してない家族の車	7	2.0
タクシー	6	1.7
知人や隣人の車	2	0.6
その他	2	0.6
合計	343	100.0

5) 薬の処方について

処方されている薬に関連して、名前と種類の知識（表 5-1）、処方場所（表 5-2）、おくす

り手帳の保持状況（表 5-3）、持っているおくすり手帳の数の結果を以下に示した。

表 5-1 薬の名前と種類について（問 12）

	N	%
よく知っている	163	47.7
だいたい知っている	156	45.6
ほとんど知らない	10	2.9
全く知らない	1	0.3
薬は飲んでいない	12	3.5
合計	342	100.0

表 5-2 処方場所の数（問 13）

	N	%
薬は飲んでいない	28	8.1
1ヶ所	207	60.2
2ヶ所	85	24.7
3ヶ所	24	7.0
合計	344	100.0

表5-2 おくすり手帳の保持（問14）

	N	%
持っている	308	91.7
持っていない	26	7.7
知らない	2	0.6
合計	336	100.0

表5-3 おくすり手帳の数（問14-2）

	N	%
1冊	260	84.4
2冊	38	12.3
3冊以上	10	3.2
合計	308	100.0

D. 考 察

山口県美祢市をフィールドとして、糖尿病のみならず、多様な疾病の医療連携のためのツールとして「なんでも健康ファイル」を作成し、試験的に使用してもらい、その評価を行った。

使用状況としては、約 40%が医療機関へ携帯して活用していることがわかった。おくすり手帳、薬の説明書、検査結果、予約票などをに入れており、予想された活用をしていた。

一方で、使用していないものもあり、その理由として、持ち運びにくいという意見が多かった。このファイルは、健康手帳や糖尿病手帳のようなサイズではなく、多くの資料などが管理できる大きめのサイズとした。サイズの大きさについては、大きすぎるといった評価が 3 分の 1 程度に見られたが、ちょうどよいという意見も半数以上あった。

健康ファイルの使用の他にも、通院状況や薬の処方状況等についても調査を行った。通院では 1 か所もしくは 2 か所の医療機関に通院している者がほとんどであり、当初の予想よりは重複受診は多くなかった。おくすり手帳は医療連携では重要なツールであり、その有効な活用が望ましい。本研究の結果、多くの回答者がおくすり手帳を持っており、かつ 1 冊であり、おくすり手帳の適切な利用が行われることが示唆された。

本調査では、2 つの市民病院の外来患者を主な対象とした。その多くは高齢者であった。配布の時の状況から、健康ファイルの課題として、いくつかのことがわかった。例えば、

(1) 歩行が容易でない高齢者は杖などをついたりしており、手提げのバッグを持つことができない。その場合、ショルダータイプのものが便利である。(2) 高齢者は細かい作業が

できないことも多く、ポケットに資料を出し入れすることが難しい。

このような状況を考えると、それぞれの状況に応じて試用できる複数のタイプのファイルが必要であることが示唆された。今回のものに加えて、ポシェットタイプなどがよいと思われた。また、必ずしも毎回医療機関へ携帯する必要はなく、通常は家に置いておいて、必要な際に、医療機関に携帯するという使用方法も好ましいかもしれない。

なお、今回の調査は、医療機関に通院中の者を主な対象にしたため、住民を代表したものではない。また、協力の得られたものであるため、使用状況も相対的によいものであったと考えられる。

E. 結 論

山口県美祢市の住民（主に通院中の者）を

対象に、さまざまな健康情報の資料を管理できる「なんでも健康ファイル」を配布し、その使用状況を調査した。その結果、40%程度がファイルを通院時に活用していた。ファイルの大きさ等について課題もあった。通院状況についても調査をし、重複受診は比較的少なく、おくすり手帳もうまく活用されている様子がうかがわれた。今回の調査を参考に、より利便性の高いツールを作成し、運用することが、医療連携の推進に寄与できるであろう。

G. 研究発表

（該当なし）

H. 知的財産権の出願・登録状況

（該当なし）